

平成27年度「第1回山梨県男女共同参画審議会」議事録

1 日 時:平成27年6月8日(月)午後1時30分～

2 審議会出席委員

(審議会委員)松葉惇会長・牛奥久代会長代理・赤岡正毅委員・岡村美好委員
小川はるみ委員・川村克美委員・久保寺成典委員・高橋好美委員
樋口高子委員・堀内寿人委員
10名出席

(事務局等) 渡辺企画県民部理事・市川県民生活・男女参画課長
三井県民生活・男女参画課総括課長補佐・古屋男女共同参画担当課長補佐
伊藤副主幹・木戸主査・山口主任

(進 行) 三井県民生活・男女参画課総括課長補佐

3 会議次第

- (1) 開会
- (2) 企画県民部理事あいさつ
- (3) 会長あいさつ
- (4) 報告事項
 - ① 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する施策の実施状況について
 - ② その他

4 概 要

- ◇ 開 会
- ◇ 理事あいさつ
- ◇ 会長あいさつ
- ◇ 事務局から

・本日の会議は、委員数15名中10名が出席しており、委員の2分の1以上の出席となっていることから、山梨県男女共同参画推進条例第22条第10項の規定により、会議を開催する。

- ◇ 議 事(条例第22条第9項により、会長が議長)

(1) 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する施策の実施状況」について

- | | |
|-----|---|
| 議 長 | ●「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する施策の実施状況」について、事務局から説明願う。 |
| 事務局 | ●〈「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する施策の実施状況について」について説明〉 |
| 議 長 | ●質問等はあるか。 |

委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 実際過去に DV がある家庭環境にいる子どもに会ったことがあるが、家庭の中での状況が子ども達の心の問題として大きな影となって後々まで残るケースが多いのではないかと考えている。県の事業を末端まで浸透させるのはなかなか難しい部分があるかと思う。いじめなどの問題もあるので、そういった問題を広い目で、男女間の人間関係なども含めて取り組んでいければと感じている。相談件数が1380件ということで増えたということだが、男性への暴力はどうなっているのか。また、デート DV の割合はどうなっているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ● デート DV は含まない数になっている。男性、女性を分けていないので、男性からの相談も含んでいる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 女性からの暴力や、若年層の暴力も激しくなってきたと感じる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● ある程度の世代までは、育てられる中で女の子はこうあるべきという姿を周囲から期待されてきたが、男女共同参画と言われるようになり、こうあるべきという枠が外れてしまうと、本来であれば男も女もなく人としてあるべき姿について教育があるべきところだが、歯止めがきかなくなってきたのではないかと感じている。女の子がとても積極的になってきているという良い面もあるが、一方でそういった面も出てきているのではないかと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ● デート DV があるということをもまず学校の先生方に知っていただくこと、またデート DV と気づいた時の指導方法を知ってもらい、深刻化する前に食い止めてもらうことが必要と考えている。そのため、まずは広く知っていただくことが重要と思い、先生方に参加していただく研修会を開催したり、パンフレットを配布するなど、少しずつでも進めていこうとしている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 今の子ども達は自律性が少なくなってきたと感じる。自分はこうしたいという気持ちがあり、常に周りを気にしてしまう傾向があり、その中で恋人が出来てしまうと、その人に対する依存度が高くなってしまおうと思う。その中で暴力が出てきた時に自律性が欠けていると、相手が逃げてしまえば自分が孤立してしまうと感じてしまうという状況も考えられる。このように根深い問題であり、男女共同参画という枠だけでは解決は難しいのではないかと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● DV に対する意識も高まってきていると思う。その中で、一定の割合であるのが、加害者から避難して保護をしても、一定の期間が経った後、「あの人は本当は優しい人なんだ」と言い、家に帰ると言い出す方がいらっしゃる。その方々を説得できる場合とできない場合がある。自律という視点からの支援も、経済的な自立の支援も重要だと思う。統計の傾向だが、平成23年度まで増加し、平成24年度に減少し、その後また増加しているが、県としての分析はあるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ● 毎年7月下旬に全国の集計結果が公表されるので、その数値を見てみると、本県特有の現象なのか、全国的な傾向なのかがわからない状況。また、来年度の件数を見る中で今後分析を行っていきたいと考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 相談件数が増えるのはよいことではない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● DV が周知されたことにより増えているのかもしれない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 平成24年度に減少したのがどういう理由かと思った。高齢者の方がずっと DV を受けていたが、自分で DV だと気づかずに、娘などに言われて始めて DV を受けていたということに気づくケースも多い。そういう意味では相談件数が増えることは一定の評価をすべきところなの

	かもしれない。
事務局	●警察による対応件数が24年度に増えていることと関係するかもしれないが詳細は不明。
(2) その他について	
議 長	●委員の皆さまからなにかあるか。
議 長	●事務局からなにかあるか。
議 長	●以上をもって、本日の議事をすべて終了する。議事進行への協力いただいたことに謝礼。
事務局	●以上をもって、平成27年度第1回男女共同参画審議会を閉会する。謝礼。